

平成29年度(2017年度)

管理事業名	自然体験交流センター事業				総合計画の体系	第4章 第1節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	10	教育費	(項)	5	社会教育費	(目)	5	自然体験交流センター費
部局名	地域教育部	予算執行所属			青少年室					
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
<p>事業の目的と概要</p> <p>「青少年に集団での生活を通じて自然と共生し、あらゆる生物の命の尊さを体感する場を提供すると共に、市民に自然を生かした生涯学習及び交流の場を提供し、青少年の社会性及び豊かな人間性を育む」ことを目的に、幼児から高齢者まで、あらゆる市民が環境学習、自然体験学習ができる生涯学習施設として開設しています。</p> <p>施設の開所時は、「青少年」を対象とした野外活動施設でしたが、平成21年(2009年)7月、その対象を青少年のみならず幼児から高齢者までとし、広く市民が自然体験活動や交流のできる場としてリニューアルオープンしました。</p>										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
利用者数	人	43,872	46,602	45,075	1年間を通して自然体験交流センターを利用した人数。
使用料収入	円	6,964,260	7,305,950	8,216,660	使用料の収入実績。
成果の説明	<p>自然体験交流センターの管理・運営については、効率的・効果的な施設運営を目指して、平成24年度(2013年度)から指定管理者制度を導入し、青少年・野外活動団体に加え、すべての市民が環境学習や生涯学習に取り組める施設として、主催事業等の充実を図るとともに、より高水準な市民サービスに努めました。しかし、台風による事業の中止が影響し、年間利用者総数が45,075人と昨年度利用者総数を下回りましたが、目標数値44,000人は上回りました。</p> <p>また、利用者の方で構成する「利用者懇談会」を年2回開催し、利用者の立場からセンターの管理運営に関する専門的・客観的な意見をいただく中で、それらの意見を参考に施設運営に反映させています。</p> <p>更に、指定管理者の施設運営状況の確認等と協議を目的として、毎月1回、市と指定管理者による運営会議を開催し、利用状況や利用者アンケートの結果等について、説明を求めるとともに施設運営に関する協議を行っています。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	6,964	7,306	8,217	911
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	130	149	130	△19
経常収入 小計(a)	7,094	7,455	8,347	892
給与関係費	-	1,495	1,430	△65
物件費	82,846	82,855	82,790	△65
維持補修費	2,273	498	16,672	16,174
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	19,397	19,397	19,397	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	124	125	2
退職手当引当金繰入額	-	1,529	93	△1,436
支払利息	4,757	3,643	2,533	△1,110
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	109,273	109,541	123,041	13,500
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△102,179	△102,086	△114,694	△12,608
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△102,179	△102,086	△114,694	△12,608
一般財源充当額	134,900	133,285	147,455	14,169
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	32,721	31,200	32,761	1,561

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	自然体験交流センター使用料 8,217千円 利用者数は減少したが、市外利用者の増加に伴い、使用料が増加しました。
物件費	指定管理委託料 82,790千円
減価償却費	自然体験交流センター建物 19,397千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,094	7,455	8,347	892
行政サービス活動支出	89,876	88,622	103,683	15,061
行政サービス活動収支差額	△82,782	△81,167	△95,337	△14,169
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	52,118	52,118	52,118	-
財務活動収支差額	△52,118	△52,118	△52,118	-
収支差額 合計	△134,900	△133,285	△147,455	△14,169
一般財源充当額	134,900	133,285	147,455	14,169
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(財務活動支出)
青少年野外活動センター再整備費の地方債償還	

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成27年度	43,872人	2,491円	自然体験交流センター利用者1人あたりの2,730円のコストがかかっています。
	平成28年度	46,602人	2,351円	経常費用は増加、利用者数は減少したため、利用者1人あたりのコストは379円増加しています。
	平成29年度	45,075人	2,730円	です。
開所日1日あたりのコスト	平成27年度	347日	314,908円	自然体験交流センター1館で1日あたりの354,585円のコストがかかっています。
	平成28年度	346日	316,592円	開所日数はほぼ同じですが、経常費用が増加したため、開所日1日あたりのコストは37,993円増加しています。
	平成29年度	347日	354,585円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	52,242	52,243	2
未収金	-	-	-	地方債	52,118	52,118	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	124	125	2
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	733,631	714,234	△19,397	固定負債	82,649	30,489	△52,159
土地	-	-	-	地方債	81,251	29,133	△52,118
建物・工作物	733,631	714,234	△19,397	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	1,398	1,356	△41
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	負債の部合計	134,890	82,733	△52,158
有形固定資産	-	-	-	純資産	598,740	631,501	32,761
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	733,631	714,234	△19,397	純資産の部合計	598,740	631,501	32,761
				負債及び純資産の部合計	733,631	714,234	△19,397

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

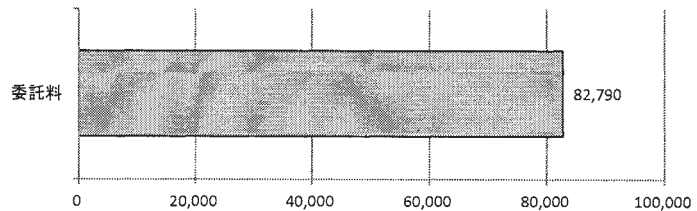
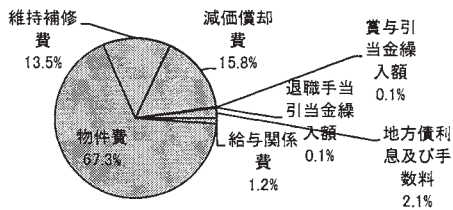
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数	
	0.2人	人	日	人	1,649
給与関係費等	1,649千円	千円	千円	千円	1,649
内、時間外勤務手当	0千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	減価償却による19,397千円の減
地方債	青少年野外活動センター再整備費に係る償還額52,118千円

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市自然体験交流センター(わくわくの郷)
取得年月日	昭和36年(1961年)12月14日
建物・工作物の取得価額	1,056,170千円
建物・工作物の減価償却累計額	341,936千円
利用料金収入	8,217千円

▽分析指標

分析指標	年度	平成29年度			差 B-A
		平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	
施設維持補修費比率		0.2	0.0	1.6	1.6
施設老朽化比率		28.7	30.5	32.4	1.9
受益者負担比率		6.4	6.7	6.7	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		95.0	94.7	94.6	△0.1
経常費用対公共資産比率		10.3	10.4	11.6	1.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】

既存施設の老朽化が1.9%進行しました。

【行政コスト計算書】

経常費用の主なものにつきましては、物件費82,790千円(67.3%)、減価償却費19,397千円(15.8%)、地方債利息及び手数料2,533千円(2.1%)、給与関係費1,430千円(1.2%)となっています。コスト全体の約68%を占める物件費の内訳は全て委託料です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

平成24年度(2012年度)から指定管理者制度を導入し、指定管理者の持つ施設運営のノウハウを生かした施設管理・運営により、施設利用者数・施設使用料ともに年々増加しています。今後は、市が負担すべき維持補修費の財源確保も含め、計画的に維持補修をすることで施設の魅力をさらに向上させるとともに、市と指定管理者が毎月定期的に協議を行うことにより、普段から十分なコミュニケーションを取りながら、より一層の市民サービスの向上とよりよい管理運営を目指します。